BX
文化シヤッター

BX GROUP SUSTAINABILITY REPORT

BXグループ サステナビリティ レポート

2021

私たちが大切にしている創業の精神

「誠実をもって社会に奉仕する」

社是

誠実	誠実とは心のふれあいである。 真心のふれあいで信頼は生まれる。
努力	努力とは、創造する行為の持続力である。
奉仕	奉仕は、自発的な行為・行動で、 お客様や社会のお役に立つこと。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

コーポレートブランド

BX

Bは文化シヤッター、Xは未知数、無限性、掛け合わせる力を意味します。何を掛け合わせるかによって、常識を超えたイノベーションが生まれ、それは無限に広がる可能性を秘めています。そしてこの鮮やかなスカイブルーは、BXグループがめざす『快適環境創造企業』として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりをイメージしたものです。

CSR憲章

成長と共に　社会と共に　地球と共に　働く仲間と共に

編集方針

本レポートは、持続可能な社会の構築をめざしたBXグループの活動や、今後めざすべき方向性についてステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しています。

2021年度版のポイント

- 2008年から発行している「CSR報告書」を「サステナビリティ レポート」に改称しました。これまでの価値創造の変遷や企業としての成長を振り返り、改めて私たちが継承すべき精神やめざすべき姿についてグループ全従業員で確認し、これから迎える未来に向けた取り組みをステークホルダーの皆様と共有する内容となっています。
- ESG投資の拡大を受け、当社グループの持続可能な社会に向けた取り組みをESGの枠組みで整理し、E（地球と共に）S（社会と共に・働く仲間と共に）G（成長と共に）毎に活動報告を掲載しています。
- BXグループでは、環境問題および防災対策を重点課題の一つと捉え、「エコ＆防災」をテーマに事業活動を行っています。2021年度版では、気候変動の緩和と適応へのアプローチについて、（株）エコウッドを事例に紹介しています。

参考にしたガイドラインおよびガイダンス
・価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス
・GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード2016」
・ISO26000：社会的責任に関する手引き
・環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」
・国際統合報告フレームワーク

Environment Social Governance
価値協創ガイダンス

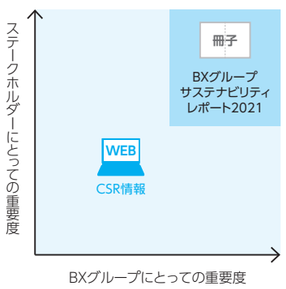
報告対象期間
2020年度（2020年4月～2021年3月）を報告期間としています。ただし一部2021年度の報告も含んでいます。組織・役職は2021年6月現在のものです。

報告対象範囲
BXグループ全体を対象としています。文化シヤッターのみ、あるいは特定の会社に限定される場合は本文中にその旨を明記しています。グループ全体を指す場合は「BXグループ」と表記しています。

将来の予測等に関する注意事項
本レポートにはBXグループの将来に対する予測・予想・計画等の記載がありますが、これらは現時点での情報に基づいた仮定および判断です。今後事業環境等の変化により影響を受ける可能性があります。

発行日
2021年10月（次回発行日2022年8月予定）

CSRに関する情報開示の全体像



WEB　CSR情報

CSR憲章やCSR推進体制などの基盤的情報や、経年の活動など、より詳細な情報を掲載しています

https://www.bunka-s.co.jp/csrinfo/

BXグループ サステナビリティ レポート2021

BXグループの活動について年次活動状況や特筆すべきハイライト情報を中心に報告しています

目 次

ごあいさつ …… 3
トップインタビュー …… 5
会社概要 …… 9
財務概況 …… 10
事業別概況　基幹事業 …… 11
事業別概況　注力事業 …… 13
数字で見るBXグループ …… 15

価値創造のあゆみ …… 17
BXグループの価値創造プロセス …… 19
BXグループの価値創造
新型コロナウイルス感染症拡大への対応 …… 21

特集：気候変動の緩和と適応への貢献
「エコ&防災」で気候変動の緩和と適応に貢献 …… 23

特集：循環型社会の実現に貢献
～“抑える”に取り組む（株）エコウッド～
「限りある資源の再生」を推進し、地球環境を守ります …… 25

サステナビリティマネジメント …… 27

持続可能な地球環境の保全
E 地球と共に …… 29

持続的な社会の形成・働く仲間の幸せを追求
S 社会と共に　働く仲間と共に …… 35

持続的な経済の成長
G 成長と共に …… 37

第三者意見／第三者意見をいただいて …… 45
用語集 …… 46

ごあいさつ

ステークホルダーの皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、2008年から発行しております「CSR報告書」を「サステナビリティ レポート」に改称しました。BXグループでは、成長と共に・社会と共に・地球と共に・働く仲間と共に、の4憲章からなるCSR憲章を掲げ活動を推進しており、それぞれの側面から重点課題を捉え、解決に向けて取り組む姿勢はSDGsにも共通するものです。CSRからサステナビリティへの移行は、この姿勢そのものが変わることを意味するものではなく、ステークホルダーの皆様や社会全体をこれまで以上に強く意識し、正負の影響を共有しながら共に持続的に成長・発展を遂げる、宣言ともいうべき思いが込められています。

社会の価値観が大きな変化を迎える中、2021年4月、新たに小倉博之が代表取締役社長 執行役員社長に就任し、BXグループのめざす、人と地球の「快適環境の実現」と企業価値の向上に向け舵を取ります。潮崎敏彦は代表取締役会長に就任し、執行役員を兼務しない立場から取締役会の議長を務めるなど、執行の監督全般を担い、コーポレート・ガバナンスの強化および最適化に尽力することとなりました。

当社グループは「誠実をもって社会に奉仕する」という創業の精神を今日まで守り伝え、社会課題に真摯に向き合うことで新たな価値の創出に挑戦し続けてきました。

「現役世代の私たちも、将来世代も、健全な地球環境の下で安心・安全で快適な暮らしをおくる」、これが私たちBXグループのめざす、人と地球の「快適環境の実現」です。

2021年から新たな中期経営計画がスタートしました。「未来を切り開く快適環境のソリューショングループ」を合言葉に、グループ一丸となって「快適環境の実現」を起点とした新たな価値の創出に挑み、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。

文化シヤッター株式会社

代表取締役会長　潮崎敏彦

代表取締役社長　執行役員社長　小倉博之

トップインタビュー

「快適環境」の追求により社会における存在価値を高め持続的な成長をめざします

2021年4月1日付けで代表取締役社長を拝命しました。
この価値観転換の時代に経営のバトンを引き継いだ重責に、身の引き締まる思いです。先人たちが築いてきた歴史と伝統を継承しながら、スピード感を持って時代の変化に即応し、BXグループの持続可能な成長と社会的価値の向上に向け、まい進してまいります。

代表取締役社長　執行役員社長
小倉 博之

新型コロナウイルスの対応状況について

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に心からのお悔やみを申し上げます。また罹患された方々の一日も早い回復をお祈りすると共に、この長きにわたるウイルスとの闘いに最前線で尽力されている医療従事者や社会を支えてくださっている皆様に、深く敬意を表し、感謝申し上げます。

BXグループでは、グループ従業員をはじめ、お客様、お取引先様、そして関係する全ての皆様の安全確保を第一に考え、感染防止に努めながら事業活動を推進しています。かねてより従業員の幸せを実現する働き方をテーマに改革を進めており、感染拡大に応じて速やかにリモート勤務への切り替えを実施し、職種ごとに感染対策を徹底した働き方へと移行することで影響の最小化に努めました。

コロナ禍においては、解決すべき課題が顕在化したという面もあります。今後起こりうる想定外の事態においても、事業活動を継続させメーカーとしての責任を果たすために、リスクの分散化やサプライチェーンの強靭化を進めると共に、さらなる業務改革やスマート化を加速させ、経営のレジリエンスを高めていきます。

この危機を従業員と共に乗り越え、「揺るがない企業」へと成長したいと考えています。

中期経営計画（2016年～2020年）を振り返って

2020年度を振り返りますと、住宅・ビルの建築着工数の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大が工事の中止・遅延を引き起こすなど、急激な需要減が当社の受注にも少なからず影響したことにより、基幹事業、注力事業ともに計画未達、中期経営計画の目標達成には至りませんでした。その一方で、2016年～2020年の前中期経営計画において実施した収益基盤を強化する事業ポートフォリオ毎の政策が、成果として表れはじめています。

前中期経営計画では、市場の変化を見据えた事業基盤を築く「成長戦略の構築」を基本方針として、グループの成長を支えてきたシャッター・ドア事業を基幹事業、今後の発展を担うエコ&防災事業、ロングライフ事業、メンテナンス事業、海外事業等を注力事業として事業区分を整理しました。

気候変動の緩和と適応に直結して貢献するエコ&防災事業や、BXグループの強みである総合力を活かしたメンテナンス事業、積極的なM&Aにより新規市場の開拓を図った海外事業では、順調に事業規模を拡大させつつあります。

収益面では課題の残る結果となりましたが、グループシナジーで当社グループが誇る「技術力」と「施工力」を最大限発揮し、BXブランドに磨きをかける社会課題解決型ビジネスモデルの確立に、今後の成長を期待させる手ごたえを感じています。

VUCA（ブーカ）の時代と言わるように、将来の予測がつきにくい不透明な時代においては、リスクと機会の見極めがより重要となります。

経営および事業リスクの最小化に努めると共に、激しく変化する社会情勢の中にビジネスチャンスを見出し、新たな価値創出への挑戦を弛まず続けていきたいと考えています。

2021年にスタートした新中期経営計画の概要

新中期経営計画は、BXグループがめざす「快適環境」のさらなる追求により、未来志向で事業の発展に取り組む2023年までの事業計画です。

本計画では、以下の3つを骨子にさらなる経済的価値と社会的価値の向上をめざします。

① 資本コストとバランスシート経営を意識し、資本構成の最適化に基づいた経営戦略を推進する

投下資本に対してBXグループが創出する経済的付加価値をBxVAと定義し、2023年に30億円まで増加させます。資本効率の向上を図り、今まで以上に収益性を重視した経営戦略を推進することで、ビジネス価値の最大化を図ります。

中期経営計画　経営指標

	2020年度	2023年度	対2020年度増減
売上高	1,731億円	**2,000億円**	+269億円
営業利益	105億円	**146億円**	+41億円
営業利益率	6.1%	**7.3%**	+1.2%
自己資本利益率（ROE）	10.4%	**11.5%**	+1.1%
投下資本利益率（ROIC）	7.6%	**10.5%**	+2.9%
BxVA	3億円	**30億円**	+27億円
BxVAスプレッド	0.3%	**3.2%**	+2.9%
DEレシオ	0.18	**0.20以下**	
自己資本比率	50.1%	**51.9%**	

資本コスト

WACC	株主資本コスト	負債コスト
7.3%を目処	8.5%を目処	0.7%を目処

※ BxVA（Bx Value Addedの略）
投下資本に対する付加価値額を表す。計画値は法人実効税率30.62%として計算。

② 株主還元を大幅に強化する

事業基盤の拡充と、市場の変化に即応する機動的な経営を可能にするための内部留保を勘案し、バランスの取れた経営を基本方針に株主の皆様への利益還元の最大化に努めます。

利益配当は当期純利益の35%（配当性向35%）を配当額の目途とし、自己株式取得を含めた株主還元政策を推進していきます。

③ 基幹事業は生産性の向上を追求、注力事業は規模を拡大することで売上高構成比率34%をめざす

基幹事業では、デジタル技術を駆使したDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することで業務の効率化による生産性の向上を図ると共に、ニューノーマルの時代における「快適環境」を追求し、住宅や建物のスマート化、インテリジェント化に対応した商品のIoT化を進めます。現在、より厳しさが増すと予想される受注環境に対応すべく、営業活動の効率化をめざした営業支援体制の強化を進めており、複雑化、細分化するニーズへの対応はもとより、総合的なコンサルタント営業により利便性や安全性、快適性にコミットする営業力を養い、当社グループの主力事業である基幹事業の基盤固めを進めます。

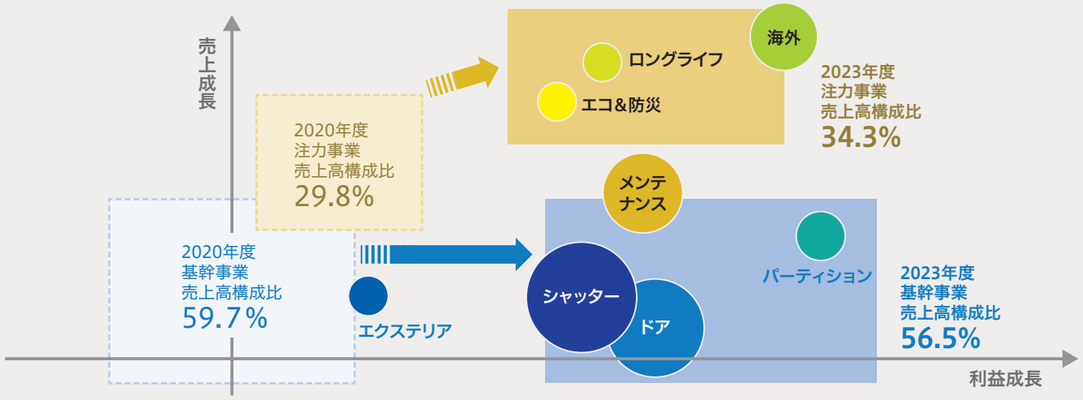
注力事業のエコ&防災事業は、地球環境の保全や都市基盤の強化といった喫緊の課題に対して、直接的にアプローチする社会貢献型事業の要です。気候の変化による影響を包括的に評価・分析する「国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が発表した最新の報告では、深刻化する地球環境の悪化に強い警鐘を鳴らしており、温暖化が原因と言われている熱波や極端な豪雨などの異常気象が今後さらに頻発すると予想しています。気候変動がもたらす損害・被害の最小化に向けて、エコ&防災事業の拡充を早急に進め、人々の安心・安全・快適な暮らしに幅広いご提案ができるよう努めていきます。

その他の注力事業においても積極的な事業展開により、注力事業を2023年に売上構成比34%まで向上させます。

以上の骨子を3本柱に、基盤となる事業のより一層の深化と、今後の発展を担う事業での新たな価値の創出を両立させ、「未来を切り開く快適環境のソリューショングループ」を実現させるのが新中期経営計画の概要です。

2023年度 各事業成長ポートフォリオ

※ 四角・円のサイズは各事業の売上規模



BXグループのESG経営とは

気候変動が引き起こす甚大な影響は、SDGsが掲げる17の目標全てに関わるものであり、特にCO_2の削減は地球規模で解決すべき重大な課題として重要視され、サステナブルな社会をめざした考えや行動が全世界で広がっています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により、世界は予期せぬ形で大きな転換点を迎えており、不確実性が増す社会変化の中で、企業はどのように成長を果たすべきか、今その根本を問われているように思います。

BXグループが持続的に社会から必要とされる企業となるためには、第一に「なんのための事業活動なのか」というBXグループが社会に存在する意義を見失わないことだと考えています。

BXグループが、社会に、そして人々の暮らしに提供する価値は「快適環境」、すなわち〈現役世代の私たちも、そして将来世代も、健全な地球環境の下で安心・安全で快適な暮らしをおくる〉ことです。

BXグループの強みである技術力・開発力・施工力、そしてそれに脈々と受け継がれる創業の精神と企業文化に裏づけされた「BXらしさ」が加わり、社会と共鳴した価値創出を実現することで、BXグループの存在意義がさらに発揮できるのだと思います。

私たちは常に時代の変化に応じた「真の快適環境」を探求し、それを具現化するソリューション集団であるべきであり、現役世代、将来世代において人々の「快適環境」を実現するために、環境問題や社会課題の解決に事業で取り組む、これが私たちのESG経営の根源です。

そこで2021年からスタートした新中期経営計画では、環境・社会への取り組みをより事業戦略に融合させ、ESGの視点で事業を推進することで、社会における存在価値を高めることをめざします。

E 環境　持続可能な地球環境保全

BXグループはこれまでも事業活動における環境負荷を低減する環境保全活動をはじめ、「エコ&防災」で取り組む環境事業および環境リスクへの適応事業や、自主的な環境貢献活動など、さまざまな角度から環境課題に取り組んできました。

これまでの活動を加速させ、喫緊の社会課題である地球温暖化防止に貢献することをめざし、5月に「BXグループ2050年脱炭素宣言」を社内に向けて発表し、2050年までにBXグループの事業活動から排出されるCO_2を実質ゼロにすることを宣言しました。

CO_2排出量削減にあたっては、国際的な基準に基づき、まずは2030年までに2019年度比排出量46.2%減をめざします。

また、コーポレートガバナンス・コードの改訂に伴い、気候リスクへの取り組みについてTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に沿った適切な情報開示を図ります。

S 社会　持続可能な社会の形成と共生

ニューノーマルな時代への転換期を迎え、迅速な対応が求められる分野だと考えています。従業員の健康管理や働き方改革を適宜進め、選択できる働き方への環境整備、新しい生活様式に応じた分散型、ネットワーク型への業務転換等、より一層の制度の充実に取り組みます。

また、施工現場における労働環境や人員不足等に代表されるように、建築業界には改善すべき課題が多くあるのも事実です。コロナ禍で深刻さを増した非正規雇用者の待遇改善や「ダイバーシティ&インクルージョン」にも早急に取り組む必要があると考えています。

Gガバナンス　ガバナンス体制の強化とリスクマネジメント

BXグループではCSR憲章の一つである「成長と共に」において「誠実な企業経営」を行動指針として掲げ、経営の透明性向上に取り組んでいます。4名の独立社外取締役による業務執行への監査・監督や、全取締役へのアンケートによる実効性評価の実施など、コーポレート・ガバナンス体制の強化を図っています。

文化シヤッターは過去に独占禁止法違反という、二度と繰り返してはならない問題を起こしています。今後はさらにコンプライアンスの徹底に努め、ステークホルダーの皆様からの信頼を高めていく努力を怠ることなく、全社的に取り組んでいきます。

現在、文化シヤッターでは環境関連のワーキンググループや、DXプロジェクト、多様な人材によるマーケティングプロジェクトなど、従業員が主体となって経営戦略の立案に参画する多数の横断的な組織が発足し、活発な議論を繰り広げています。

目の前の仕事について、広い視野で社会的意義を考え、自分に何ができるのか、積極的に行動に起こしてくれる従業員が増えていることを実感しています。自らの仕事が社会の一役を担っているという実感が従業員一人ひとりの幸福感につながり、それにより引き起こされる主体的な行動変容によって、BXブランドがさらなる飛躍を遂げるものと確信しています。

BXグループの社会的意義を重視したESG経営によって、いかに社会における存在価値を高められるか、BXグループがこれからの時代を生き抜く鍵はここにあると考えています。

「快適環境」をソリューションするグループとして、幅広い分野でステークホルダーの皆様に頼られ、そして社会から選ばれる企業となるために長期的視点で事業展開を図り、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

会社概要

商　　号	文化シヤッター株式会社　Bunka Shutter Co., Ltd.
本　　社	東京都文京区西片一丁目17番3号　TEL：03-5844-7200（代）　FAX：03-5844-7201
創　　業	1955年（昭和30）4月18日
事業内容	各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売
資本金	15,051百万円（2021年3月31日現在）
決算期	毎年3月
上場／公開	東京証券取引所 市場1部（1973年11月公開）
従業員数	4,764人（連結、2021年3月期）
全国営業拠点	225ヶ所（連結335ヶ所）

工場　7工場（連結32工場）

千歳工場	北海道千歳市北信濃776-4
秋田工場	秋田県秋田市川尻町大川反170-3
小山工場	栃木県小山市大字上石塚1088-1
掛川工場	静岡県掛川市淡陽2-1
御着工場	兵庫県姫路市御国野町御着字深見187
姫路工場	兵庫県姫路市四郷町本郷51-1
福岡工場	福岡県朝倉郡筑前町朝日618

ISO認定/登録

認定/適用規格	組織名
ISO/IEC17025	ライフイン環境防災研究所
ISO9001	掛川工場
	御着工場
	小山工場
	姫路工場
ISO14001	小山工場

関連会社

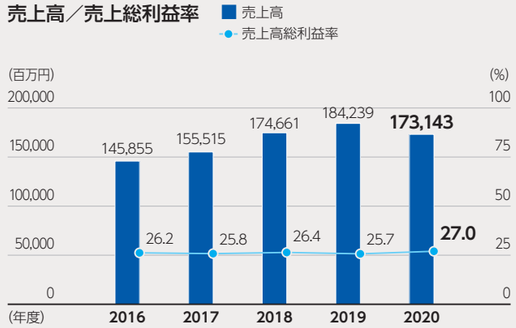
- 文化シヤッター秋田販売株式会社
- 文化シヤッター高岡販売株式会社
- 不二サッシ株式会社
- EUROWINDOW, JSC.

BXグループの事業とグループ会社

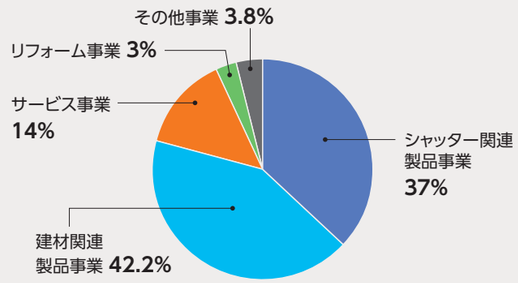
シャッター関連製品事業	BX新生精機株式会社 ・BX SHINSEI VIETNAM Co., Ltd.
	BXテンパル株式会社
	BX沖縄文化シヤッター株式会社
建材関連製品事業	BXケンセイ株式会社
	BX文化パネル株式会社
	BX鐵矢株式会社
	BX東北鐵矢株式会社
	BXティアール株式会社
	BX朝日建材株式会社
	BXルーテス株式会社
	株式会社エコウッド
	BX紅雲株式会社
	BX西山鉄網株式会社
	BXカネシン株式会社
サービス事業	文化シヤッターサービス株式会社
リフォーム事業	BXゆとりフォーム株式会社
海外	BX BUNKA VIETNAM Co., Ltd.
	BX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE GARAGE DOORS AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE INSTALLATIONS AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE GARAGE DOORS (WA) PTY LTD ・MISIV PTY LTD ・ARCO (QLD) PTY LTD
その他事業	BXあいわ株式会社
	BX TOSHO株式会社

財務概況

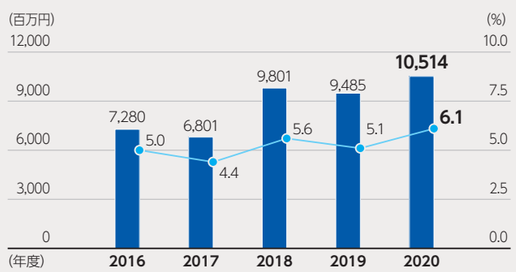
売上高／売上総利益率



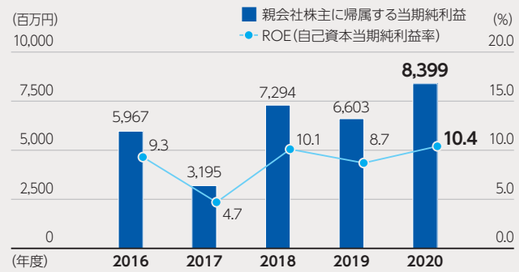
セグメント別売上高構成比



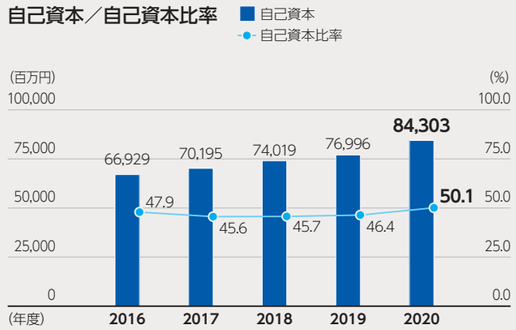
営業利益／営業利益率



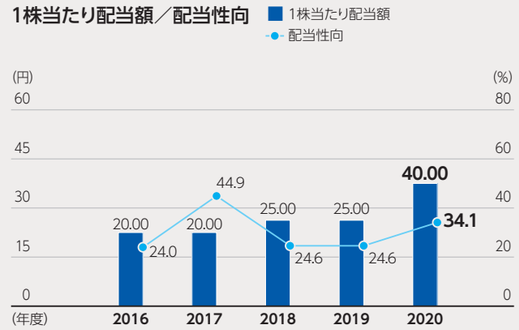
親会社株主に帰属する当期純利益／ROE（自己資本当期純利益率）



自己資本／自己資本比率



1株当たり配当額／配当性向



基幹事業

創業当初よりBXグループの成長を支えてきたシャッター・ドア事業は、防風、防雨に始まり、防犯、防火、防煙、さらには止水（浸水対策）と時代のニーズに応じた課題解決の追求により人々の安心・安全な暮らしを守り続けています。そして現在、IoT・ICT技術を活用し、未来を見据えた「新しい住まい方」への総合提案をめざした新たな挑戦が始まっています。今後も基幹事業を当社グループの強固な収益基盤とするべく、事業領域を拡充させ、新たな価値を提供していきます。

事業環境

新型コロナウイルス感染症の影響は、ワクチン接種が進む一方で変異型ウイルスの再拡大等への懸念が残り、依然として先行きの不透明さは残るものの、国内では先行指標とする民間設備投資が今後は緩やかに持ち直す見込みです。

工場建設においては新築投資額の割合が減少している一方で、老朽化や耐震補強等による大規模修繕が増加しているほか、脱炭素化や新技術に対応した生産力の増強が求められていることから、工場向けの重量シャッターの受注は前期減少の反動を受け、緩やかながらも堅調な伸びを保つものと期待しています。

また、人口減少、少子高齢化に応じた施設管理の無人化やユニバーサルデザインの追求など、社会構造に応じた商品の拡充を推進する一方で、新型コロナウイルス感染症拡大による社会情勢の変化に伴い、業務改革やICT、DX等の活用など、収益拡大に向けたビジネスモデルの変革が求められています。

シャッター事業

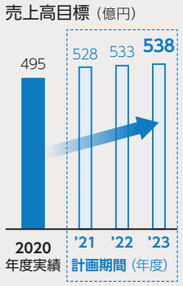
2020年度の実績

大型物流倉庫向けの重量シャッターが堅調に推移した一方で、企業設備投資減少のあおりを受け工場向け重量シャッターが減速、軽量シャッターにおいても工場向け、住宅向け共に減少した結果、2020年度の売上高は前年度比27億円減の495億円（売上総利益186億円）となりました。

新中期経営計画

堅調に推移する大型物流倉庫を中心に都市再開発物件も含め重量シャッター群の受注拡大を図ります。軽量シャッター群はガレージシャッターを中心として、操作性や開閉速度の向上など使用者の視点に立った高付加価値商品の提案を推進し、拡販に注力します。さらに窓シャッター群は、既設窓シャッターのメンテナンスおよび電動化を推進します。以上により、2023年度に売上高538億円、売上総利益195億円をめざします。

高耐風圧仕様ウインドブロックシリーズ
重量シャッター



風速81m/秒に相当する耐風圧強度4000Paを確保した高耐風圧仕様の重量シャッターは、物流倉庫や工場の大型台風対策としてBCP（事業継続計画）を支援します。

ドア事業

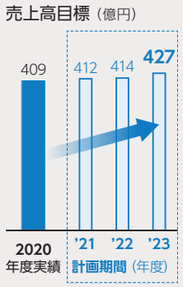
2020年度の実績

都市再開発に伴うオフィスビル向けの受注が好調に推移した一方で、工事の延期や中止が急増したことが影響し、2020年度の売上高は、前年度比27億円減の409億円（売上総利益63億円）となりました。

新中期経営計画

都市圏において堅調に推移する再開発物件を中心に、ビル用ドア商品の受注を拡大することで、2023年度に売上高427億円、売上総利益68億円をめざします。また、ドア関連事業を担うグループ会社とのシナジー効果の最大化を図り、生産力を強化します。

高齢者住宅向け玄関ドア「ヴァリフェイスAi」



高齢者住宅向けに軽い開閉操作だけでなく我が家らしさをイメージしたデザイン性を重視しました。加えて地震によって建具の枠が歪んでも開くことができる「建物変形対策」が施されています。

パーティション事業

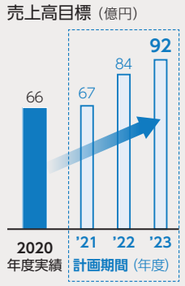
2020年度の実績

パーティション事業は、主に「学校施設」向けの減少が影響し、売上高は前年度比8億円減の66億円（売上総利益15億円）となりました。

新中期経営計画

オフィスビルや事務所の非住宅着工床面積や工事予定額は年々減少傾向にあるものの、執務環境の改善やインテリジェント化を目的とした床面積当たりの工事予定額は上昇しており、高付加価値商品の需要が見込める傾向にあります。
また、文部科学省が公表する「施設整備基本方針」の改正により、学校施設における防災機能の強化や長寿命化改良、バリアフリー化などが進むと予測されることから、BXグループ独自の安心・安全を追求した高付加価値商品の提案を推し進めることで収益の改善を図り、2023年度に売上高92億円、売上総利益19億円をめざします。

学校用間仕切「プレウォール」



当社独自の「はずれ止め構造」により戸や障子が外れて落下するのを抑制する「地震動対策」が施されており、地震から子どもたちを守ります。

事 例 紹 介

防虫・防塵対策に最適な高速シートシャッター

「大間迅HACCPパッケージ」

食品衛生法の一部を改正する法律が2018年に公布され、食品の製造から販売に関わる全事業者を対象に、食品衛生管理の世界基準である衛生管理手法「HACCP（ハサップ）」の導入が2021年6月より完全義務化されました。BXグループではこれを受けて、防虫対策や防塵対策等を施した高速シートシャッター「大間迅HACCPパッケージ」を発売しました。
感染予防や衛生管理に最適な「非接触センサ」を内蔵し手を上下に動かす動作でシャッターを開閉できる「ジェスチャーモード」が業界初の新機能として追加されました。

耐熱強化ガラス入り特定防火設備

「エリファイトクリア・スチールタイプ」

オフィス・商業施設向けの耐熱強化ガラス入り特定防火設備「エリファイトクリア・スチールタイプ」は、従来商品の刷新版として新たに国土交通大臣認定を取得した特定防火設備です。扉等に組み込まれるガラスは、衝撃や熱に強く、透明性の高い耐熱強化ガラスを採用しており、高い防火性を確保しながら、扉の向こう側が確認できる視認性も高く、飛散防止フィルムにより割れたガラスも飛散しません。高い防火性と共に意匠性にも優れた防火商品です。

スマートフォンで操作できる窓シャッター

「マドマスター・スマートタイプ」

家庭の電気やガスの使用状況を見える化し、家電機器をコントロールすることで省エネ効果を高めるHEMSに対応しています。外出先からスマートフォンで開閉操作ができるほか、気象警報に連動して自動でシャッターが閉鎖、スマートスピーカーとの連携により呼びかけ操作も可能です。
文化シヤッターではIoTを活用した窓シャッターを業界に先駆け2015年から販売を開始しており、快適に暮らしながら省エネ効果を高めるスマートライフを提案しています。

注力事業

注力事業であるエコ＆防災事業、ロングライフ事業、メンテナンス事業、海外事業はBXグループの今後を担う事業として積極的に発展させるべく、事業拡大をめざした挑戦と投資を実施していきます。特にエコ＆防災事業においては、気候リスクに対応する「緩和」と「適応」に適合した商品のさらなる拡充を進め、地球環境の保全と企業成長の両立を図ります。

事業環境

地球温暖化が深刻化する中、国内外において都市の強靭性を高める投資が活発化しており、気候変動の影響を軽減することを目的とした「適応ビジネス」は今後も需要が増すものと考えています。防災関連製品については、懸念される首都直下型、南海トラフ等における大規模地震発生等に備え、耐震性を追求した製品の拡充によりさらなる拡販が期待されるところです。

▶ **関連情報 P43** 大規模地震に備えるソリューション展開

また、新型コロナウイルス感染症の影響により受注減となったロングライフ事業については、リフォーム市場規模が緩やかながらも増加傾向にあると見込んでおり、建設以外の電気、ガス、家電量販店など異業種からの参入が増える中、WEBコンテンツの強化やニューノーマルな営業スタイル、さらにはマーケティングへの変革が求められています。ASEANにおいては各国のGDPが堅調に推移するものと見込んでおり、また豪州では注力するリノベーション市場の先行指標となる住宅リノベーション投資が安定して推移すると予測されます。

エコ＆防災事業

2020年度の実績

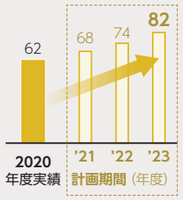
エコ事業は、循環型社会の実現に貢献する木材・プラスチック再生複合材「テクモク」と、エアコンの稼働率を大幅に下げる日除け「オーニング」の拡販を推し進めました。
防災事業は、集中豪雨等による浸水被害を軽減する止水事業を要とし、企業や交通インフラ等のBCP対策のほか、自助の備えを支援する豊富なラインナップにより受注を伸ばしました。以上により2020年度の売上高は前年度比30億円増の62億円(売上総利益21億円)となりました。

新中期経営計画

環境配慮商品の主力である「テクモク」と「オーニング」の総合提案を継続すると共に、地球温暖化防止や循環型社会の実現に寄与する商品として、SDGsへの貢献を積極的に発信していきます。
防災事業では止水商品のさらなる普及拡大の他、M&Aやアライアンスも視野に入れた事業拡大を図ります。以上により、2023年度に売上高82億円、売上総利益27億円をめざします。

BX止水板「ラクセット」

売上高目標（億円）



さまざまな場所に工事不要で取り付けが可能な上、急な増水時にもスピーディーに設置できます。また止水機能を発揮しながら扉を開閉することができるため、店舗等の浸水対策に最適です。

海外事業

2020年度の実績

2020年度は、ベトナムとオーストラリア共に新型コロナウイルス感染症による営業活動自粛、現場遅延が影響し、売上高は前年度比4億円減の114億円(売上総利益27億円)となりました。

新中期経営計画

BX BUNKA VIETNAM、BX BUNKA AUSTRALIAにおいては、急激な市場の変化にも対応できるよう事業基盤の強化に努め、利益拡大を図ります。また、M&Aによる事業拡大を視野に入れ、2023年度に売上高は200億円、売上総利益60億円をめざします。

売上高目標（億円）

メンテナンス事業

2020年度の実績

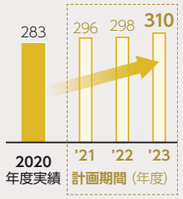
2020年度は保守点検の延期や是正工事等の減少に加え、法定点検における競争激化が影響し、売上高は前年度比13億円減の283億円(売上総利益88億円)となりました。

新中期経営計画

前年度において延期された保守点検の対応に加え、当社グループの総合力を武器とした法定点検の対応強化および24時間365日対応のアフターメンテナンス体制のさらなる充実により、2023年度に売上高310億円、売上総利益101億円をめざします。

防火設備の定期検査

売上高目標（億円）



BXグループは全国250の拠点に約2,000名の防火設備検査員を配置しています。検査員は一般社団法人日本シャッター・ドア協会認定の保守点検専門技術者の資格者で、お客様の大切な命、財産を守る防火設備の点検を行います。

ロングライフ事業

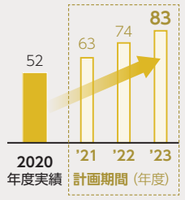
2020年度の実績

2020年度は、工事の延期や中止に加え、対面営業活動の自粛、商談機会の減少などの影響により主に住宅リフォーム事業が苦戦した結果、売上高は前年度比19億円減の52億円(売上総利益15億円)となりました。

新中期経営計画

住宅リフォーム事業については、生産性向上やWEBコンテンツの強化に努め、コロナ収束後を見据えた営業力・集客力の強化を図るほか、感染対策を万全にしたリフォーム相談会の定期的な開催に注力します。
ビルリニューアル事業は、引き続き「耐震」「浸水対策」をキーワードとした提案力の強化を図ります。以上により2023年度に売上高は83億円、売上総利益24億円をめざします。

売上高目標（億円）



マンション耐震補強施工例

住宅リフォーム施工例

事　例　紹　介

止水板付き重量シャッター「アクアボトム」が「2020年“超”モノづくり部品大賞」奨励賞を受賞

止水板付き重量シャッター「アクアボトム」が、モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が主催する「2020年“超”モノづくり部品大賞」において、奨励賞を受賞しました。「アクアボトム」は、シャッターのスラット下部に止水板を連結し、ボタン操作一つで止水機能を発揮する浸水対策製品です。「“超”モノづくり部品大賞」は、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材を表彰するもので、当社の受賞は今回で7度目となります。

「気候変動適応情報プラットフォームA-PLAT」に適応ビジネス事例として紹介

ゲリラ豪雨や集中豪雨による浸水被害からお客様の生活を守る止水事業の取り組みが、国立研究開発法人国立環境研究所が管理・運営する「気候変動適応情報プラットフォームA-PLAT」に、適応ビジネスの事例として紹介されました。

A-PLAT
気候変動適応情報プラットフォーム
CLIMATE CHANGE ADAPTATION INFORMATION PLATFORM

WEB https://adaptation-platform.nies.go.jp/

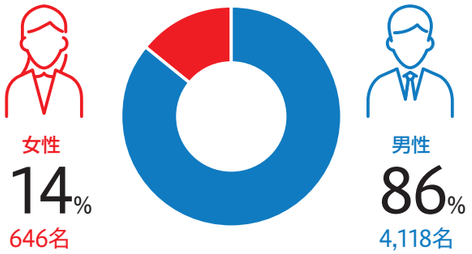
適応ビジネスの事例 「集中豪雨による内水氾濫から生活を守る止水ソリューション」
https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/database/opportunities/report_073.html

数字で見るBXグループ

※「連結」「BXグループ」以外のデータは「単体」で算出

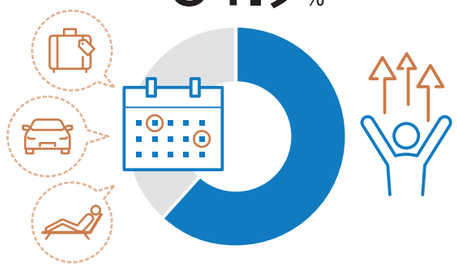
連結従業員数

4,764名



年次有給休暇取得率

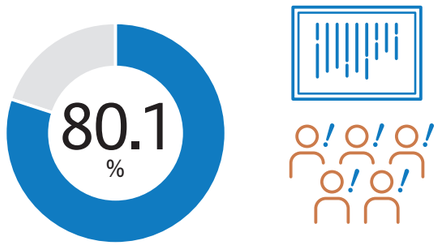
61.9%



ブランド意識調査結果　BXグループ回答率49.8%（総回答数2,318）

社是・経営理念の浸透度

社是・経営理念を「知っている」と回答した割合



BXグループに誇りを持っている従業員

「誇りを持っている・ある程度誇りを持っている」と回答した割合

リモートワーク実施率

15.6%

従業員一人あたりの平均残業時間

19時間

女性管理職比率

1.0%

離職率

1.7%

育児休業取得者

男性 2名
女性 9名

定年後再雇用実績

34名

BXグループ防火設備検査員有資格者数

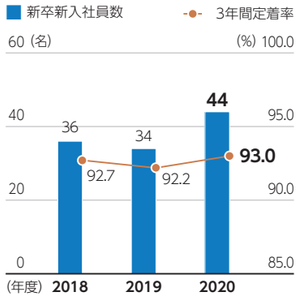
1,979名　※2021年3月時点

外国人技能実習生

12名

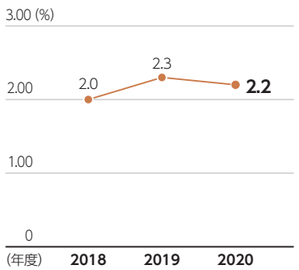
新卒新入社員3年間定着率

93.0%



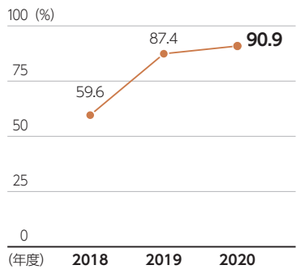
障害者雇用率

2.2%



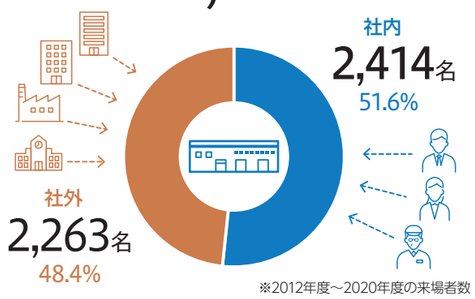
ストレスチェック受検率

90.9%



ライフイン環境防災研究所の来場者数

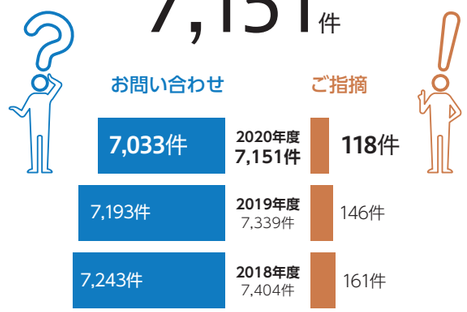
のべ4,677名



※2012年度～2020年度の来場者数

お客様相談室応対件数

7,151件



価値創造のあゆみ

BXグループは、創業者の残した「奉仕」の精神のもと、社会課題に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今後も絶えず変化する社会課題とより深く関わり、価値創造への取り組みを追求することで、「快適環境ソリューショングループ」として進化し続けます。

創業期（1955年～）
徹底的なユーザー視点

文化シヤッターの創業は1955年、“お客様第一主義”とも言うべきユーザー視点から誕生した会社でした。以来、お客様に喜んでいただける製品・サービスの追求とそれを支える技術の研鑽に努め、BXグループの発展の礎を築きました。

1970年～
総合建材メーカーへ

大阪万博（EXPO'70）で幕を開けた1970年代。文化シヤッターは、将来を見据えて住宅用建材事業やビル用建材事業に本格参入し、シャッター事業と共に3つの市場で新たな価値を提供する総合建材メーカーとして歩み始めました。

1990年～
高付加価値への挑戦

1992年3月に売上高1,000億円を達成。さらなる高みをめざし、「技術力」を駆使した特殊物件への挑戦や、省エネに優れた環境配慮商品の提供など、ユーザー視点に基づいた高付加価値商品やサービスへの追求に拍車がかかりました。

2005年～
快適環境のソリューショングループへ

2006年に掲げた「快適環境のソリューショングループ」は健やかな地球環境のもとで人々が快適に暮らすために生活全般をソリューションするBXグループのあるべき姿です。持続可能な社会への貢献がグループの成長・発展につながる課題解決型の経営への探求が始まりました。

事業と商品

1958
前処理防錆技術「パーカーライジング法」

業界で初めて防錆処理を導入し、旋風を巻き起こしました。

1959
軽量シャッターの電動化を実現

巻取り機構の収納スペースを必要としない電動式軽量シャッターを開発。これを基盤に、重量電動部門と軽量電動部門の2つの道を歩むことになりました。

1968
業界初の住宅用窓シャッターを発売

「ブラインド雨戸ミニ」は、住宅用に軽量化された画期的な商品でした。多様化するライフスタイルにふさわしい新しい住宅建材として一大ブームを起こしました。

1973
全国初ユニットバルコニーを発売

鉄工所で製作していたバルコニーを、ユニットバルコニーとして規格化し発売。ビル用建材では、学校向けパーティション、軽量鋼板ドア、店舗用装飾テントなど相次いで商品化し、事業の枠を拡げました。

1974　防災シャッターの開発

多くの死傷者を出した大阪千日デパートの火災を契機に、防火性、防煙性に優れたシャッターを開発し、社会の要請に応えました。

1982　アフターサービス体制を強化

24時間365日サービス体制を確立し、次いで1986年には業界で初めてサービスカーに「カー無線」を導入しました。

1991
業界初、耐火試験炉を完成

桶川テクニカルセンターに自社内試験炉を導入。耐火性の高い商品開発の迅速化につなげました。

1999
省エネ効果の高い環境配慮商品の開発

高速シートシャッター「エア・キーパー大間迅」が誕生。開閉速度は通常シャッターの10倍以上で気密性、耐風性が高く、省エネに優れた商品として注目を集めました。

2000
試験・検証施設「試験センター」を開設

桶川テクニカルセンターの機能を拡充。自社内の試験設備を充実させ、検証データを蓄積することで「技術力」の向上と商品化へのスピードアップにつながりました。

2007
循環型社会に貢献する環境配慮商品の開発

廃木材と廃プラスチックを原料とした木材・プラスチック再生複合材「テクモク」を発売。廃棄物の削減や資源保護、環境保全への配慮で循環型社会の実現に貢献しています。

2012　浸水から社会を守る止水事業に参入

業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水商品を開発、発売。自治体や企業などのBCP対策に採用いただき、「“超”モノづくり部品大賞（生活関連部品賞）」などの評価をいただいています。

2017　ライフイン環境防災研究所に名称変更

2008年、より一層の開発スピード向上を図るため、「試験センター」に新たなコンセプトを加えた「ライフインセンター」を小山工場隣接地に開設。2017年には事業テーマ「エコと防災」にちなみ、「ライフイン環境防災研究所」として生まれ変わりました。

ブランド理念の変遷

1958　創業の精神
「誠実をもって社会に奉仕する」

経営者のことば
「難題に挑み、解決していくところに真の企業の実力を発揮できるものだと思うし、この困難を克服して初めて進歩があり発展がある」
「革新と挑戦で日々の基準を超え、企業イノベーションを果たす」

経営ビジョン
1. 信頼と愛情
2. 自力本願
3. 従業員と共に歩む
4. 挑戦的姿勢

1970　1976　共有するクレド
「創造・挑戦・革新」

経営者のことば
「技術で社会に貢献する『技術立社』をめざす」
「相互信頼・相互繁栄」
「会社の繁栄なくして社員の幸せはなく
社員の幸せなくして会社の繁栄なし」

われらの夢（抜粋）
- 人間尊重の思いやりと話し合いのある会社
- 正しい意味での顧客第一主義の会社
- 多くの協力者の英知と力を結集した会社
- 共に歩み、苦楽を共にわかちあえる会社

経営理念
常にお客様の立場に立って行動します
優れた品質で社会の発展に貢献します
積極性と和を重んじ日々前進します

長期ビジョン
快適環境創造グループ ……（継承）……

経営者のことば
「革新に徹し、新しい時代に応えるアイデンティティを確立する」
「技術と知識のイノベーションを起こす」

「21世紀委員会」の発足
文化シヤッターの21世紀のありたい姿を創造し、
会社と個人の成長を実感できる環境を実現する

社是・経営理念を具現化する指針
「もっともっと運動」
「ＢＸ商人道」
常に相手に喜んでもらうことを考え、売り手も買い手も社会も良しであるという「三方両得」の喜びを追求し、BXグループの風土とする
「現場に行き・現場を見て・現実に対応する三現主義」
「明・元・素」　明るく、元気で、素直な社風をめざす

2004　共有するクレド
ライフ・イン　ライフロング・パートナーシップ

経営者のことば
「『看る目』を養い感性ある“ことづくり”で新しいライフスタイルを提案する」
「ステークホルダーの皆様と従業員の幸せを実現する」

CSR憲章
成長と共に・社会と共に・地球と共に・働く仲間と共に

経営理念
私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

新中期経営計画
未来を切り開く快適環境のソリューショングループ

BXグループの価値創造プロセス

創業以来培ってきた「技術力」と「施工力」を強みに、グループ間連携によるシナジー効果を発揮することで、新たな価値を時代に先駆け提供する価値創造プロセスの実現に取り組んでいます。独自の成長モデルである「BX-CSV」（社会と共有する価値の創造）による持続可能な社会への貢献により、さらなる企業価値の向上をめざします。

新たな価値創造への資本

人と地球の快適環境
持続可能な社会

Input

6つの資本
（2020年度）

財務資本
ROE 10.4%
自己資本額 806億円
フリーキャッシュフロー 15,299百万円

製造資本
国内外に広がる生産ネットワーク
国内 26拠点
海外 6拠点

知的資本
技術の文化を支える基盤
開発費用 2,262百万円

人的資本
理念を共有した多様な人材
グループ従業員数 4,764名

自然資本
効率的なエネルギーの使用と環境への配慮
エネルギー使用量 10,975kl

社会関係資本
販売先国数 約50ヶ国

Our Business モデル

事業ポートフォリオ × 提供ソリューション

基幹事業
シャッター
ドア
パーティション
エクステリア

ライフ・イン
市場のニーズに適合した製品やサービスを提供するマーケットインの発想をさらに進化させ、お客様の生活全般を捉えた感覚や視点で、必要とされる製品やサービスを提供します。

注力事業
エコ＆防災
ロングライフ
海外
メンテナンス
特殊建材

ライフロング・パートナーシップ
製品やサービスを安心・安全かつ末永くお使いいただき、お客様との永続的な信頼関係を構築していくことで、広く社会に対して持続的に貢献していきます。

その他事業

強み
技術力　グループシナジー　施工力

価値創造の源泉
創業の精神　「誠実をもって社会に奉仕する」
企業文化　「創造・挑戦・革新」

Output

中期経営計画・成長戦略

中期経営計画
2021～2023年度

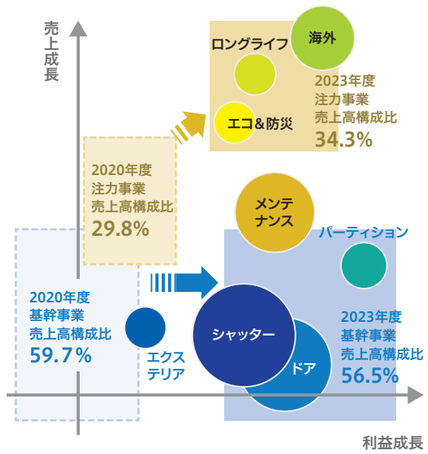
未来を切り開く、
快適環境のソリューショングループ
をめざして

主要テーマ

1. 資本コストとバランスシート経営を意識し、資本構成の最適化に基づいた経営戦略を推進する
2. 株主還元を大幅に強化する
3. 基幹事業は生産性の向上を追求、注力事業は規模を拡大することで売上構成比率34%をめざす

2023年度 各事業成長ポートフォリオ

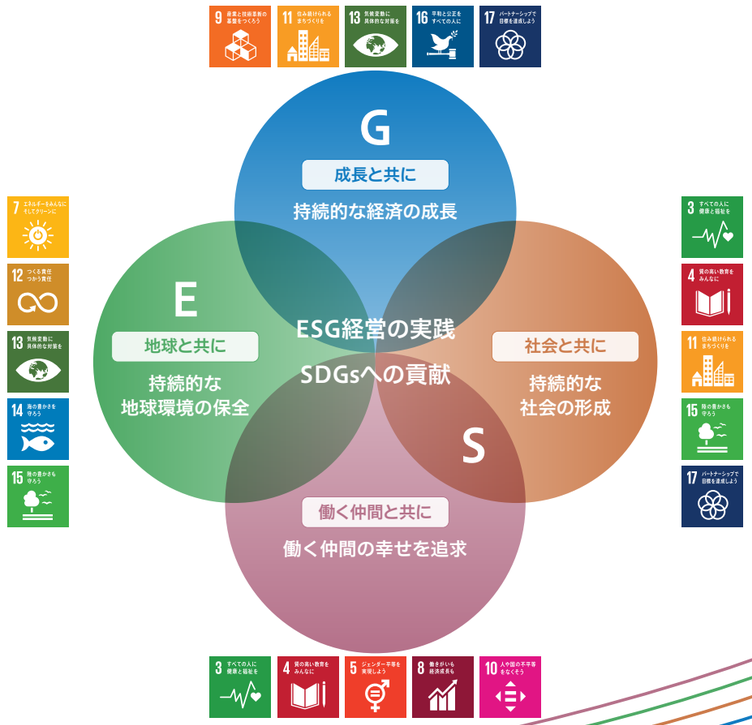
※ 四角・円のサイズは各事業の売上規模



目標

連結売上高 2,000億円	営業利益 146億円	BxVA※ 30億円
基幹事業 1,130億円 注力事業 685億円 その他事業 185億円	ROE（自己資本利益率） 11.5%	BxVAスプレッド 3.2%

※ Bx Value Added：投資資本に対する付加価値額



Outcome

社会発展への貢献と経済的価値

BX-CSV
BXグループと社会の共通価値の創造

- ユニバーサルデザイン　多様性を重視したものづくり
- エコ　地球環境の保全
- 防災　いざという時の備え
- 防犯　安心・安全な暮らし
- ロングライフ　お客様との末永い関係構築

地域との共生
従業員の幸福度向上
株主への還元

従業員そして社会と共に難局を乗り越える

BXグループでは、新型コロナウイルス感染症を経営および事業活動全般に重大な影響を及ぼす可能性のある危機として認識し、お客様やお取引先様、グループ従業員とその家族をはじめとする全てのステークホルダーの安全を確保するため、感染防止を最優先にさまざまな取り組みを行っています。
また同時に、コロナ禍で顕在化した社会課題に向き合い、当社グループの事業特性を活かした課題解決にも取り組んでいます。

従業員の命を守る

BXグループでは、グループ従業員を新型コロナウイルスの感染から守ることと事業継続の両立をめざし、さまざまな取り組みを進めてきました。

BXグループ新型コロナウイルス対応ガイドライン

従業員を感染から守るため、感染拡大防止措置および感染予防対策ガイドラインを策定し、全従業員に周知しました。

- **感染者や濃厚接触者および体調不良者が発生した場合の対応要領**
- **業務等における感染拡大防止措置**
  不要不急の出張等の禁止（海外渡航の禁止）、在宅勤務の実施、時差出勤の実施、WEB・テレビ会議の最大活用、会食・懇親会の禁止、体調不良者の出社禁止
- **日常生活における感染予防対策**
  ３密の回避、マスクの着用、手洗い・うがいの徹底、咳エチケットの徹底、普段の健康管理・適度な湿度の維持、出社前の検温、新しい生活様式の実践

新たな働き方の推奨

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を推奨するため、従来の在宅勤務制度を見直し、新たにテレワーク勤務を導入しました。また、時差出勤の制度化やWEB会議の最大活用、サテライトオフィスやIT環境の整備を行いました。

職場における対応

従業員が安心して働ける職場環境整備のため、従業員執務デスク周辺および会議・打合せスペース等に飛沫拡散防止用パーティションを設置したほか、ビルの正面玄関および各フロアのオフィス入口に消毒液と検温器を設置しました。

BXビル プライベートボックス

企業活動を維持する

メーカーの社会的責任として、お客様、お取引先様との良好な信頼関係を維持するため、さまざまな感染防止策とデジタル化による業務改革を進め、経済的損失の最小化と事業活動の維持・継続を図りました。

営業の現場では

営業職のリモート勤務体制を整え、リモートでの会議や面談を多く取り入れ、お客様やお取引様との関係性維持や業務推進を図りました。さらにこれまでの業務フローを見直し、非接触での授受、取引への移行にご理解を頂くなど、デジタル化を進めました。これらの取り組みにより、新中期経営計画の重点施策である働き方の改革を加速させ、ライフスタイルに合った働き方の幅が広がりました。

製造の現場では

各工場では、公衆衛生管理を励行し、検温、消毒、マスクの着用やデスクパーティションの設置など徹底した感染対策を実施する他、厚生労働省が公表した「新しい生活様式」を参考に、共同施設のあり方を見直すなど運用の改善を図りました。どのような状況においてもバリューチェーンが分断されることなく、安定的な供給責任を果たすリスク管理とBCP（事業継続計画）が発揮された結果、現在まで滞りない生産活動が維持されています。

施工の現場では

施工現場では、一人ひとりの意識向上が現場全体の感染リスク低減につながることから、従業員および協力会社の工事員に対し、行政のガイドラインに応じた感染対策の周知徹底を図りました。また、熱中症予防の観点から工事員全員に「マウスシールド」を配布し、人との距離や作業負荷等、状況に応じて飛沫飛散防止効果の高いマスクと併用するなど労働災害の防止にも努めました。

BXビル エントランスロビーでの感染対策

医療従事者の命を守る

社会情勢を背景に、検査用ブースの提案を推し進め、文化シヤッターが担うべき社会的使命を持って感染拡大防止に貢献しました。

新型コロナウイルスの感染が急拡大した2020年前半は、地域医療体制の構築の一環として、自治体や病院施設において、安心・安全にPCR検査を実施するための環境整備が急務でした。検査数の増加により検査場所の確保や安全対策が急がれる中、文化シヤッターでは2020年5月に検査にあたる医療従事者の感染リスクを抑える「PCR検査用ブース」の全国提供を開始、東京都内数か所へ寄贈するなど、感染拡大防止に貢献しました。

- **ウォークスルータイプPCR検査用ブース**

ブースを使用することにより、検査時において被験者に直接触れることがなく、医療従事者の感染リスクを抑えられます。

ブースには外部とのコミュニケーションを円滑にするワイヤレスインカムのほか、LED照明、コンセントを標準で装備しています。さらにブース内の空気をより清潔に保つためにHEPAフィルター※付クリーン送風機をオプションで用意しました。

※HEPA（High Efficiency Particulate Air）フィルターとは、JIS規格によりクリーン度を定められた高性能のエアフィルタの一種で、医療用プラスチック成形や食品分野のクリーンルーム、クリーンブースのファンユニット等に利用されています。

WEB 快適空間設計工房 > PCR検査用ブース
http://bunka-s-pro.jp/product_category/other/pcrinspectionbooth/

社会への貢献

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からボランティアや地域活動の自粛が続く中、各地域で絆を深めることを目的とした活動に取り組みました。

マスクの寄贈

初めての緊急事態宣言が発令され、全国に拡大される中、文化シヤッターでは約5万枚のマスクを全国のステークホルダーに寄贈しました。当時はマスク不足が深刻で多くの感謝の言葉が届きました。

デスクパーティションを寄贈

兵庫県姫路市にある文化シヤッター御着工場では、地域の図書館から依頼を受け、感染防止策として図書館閉館時に非接触で本の返却ができる無人返却口をオーダーメイドで設置し、開館時に安心して利用できるようにデスクパーティションを寄贈しました。

地域の飲食店応援事業「文京ソコヂカラ」への協力

文化シヤッターが本社を置く東京都文京区では、区の主導により地域の飲食店を応援する「文京ソコヂカラ」事業が実施されました。BXビルに勤務する従業員が2日間にわたりテイクアウトを利用することでこの事業に協力しました。

「エコ&防災」で気候変動　の緩和と適応に貢献

地球温暖化による影響が深刻化する中、「国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が発表した最新の報告では、世界の平均気温の上昇は人的要因において加速しており、気候リスクがより切迫していることを伝えています。
BXグループはCO_2の排出量を削減する「緩和策」と、すでに起こりつつある気候変動による影響への「適応策」に、「エコ＆防災」の両輪で取り組み、持続可能な社会と地球環境の実現に貢献します。

省エネ対策
再生可能エネルギーの普及
CO_2吸収源対策

抑える

CO_2の排出を抑制する

エコ事業

エネルギーの転換をはじめ
100%リサイクル建材の活用で地球温暖化を緩和する

▶ 関連情報 P11

エネルギーの省力化・効率化

ビニールカーテン「エア・セーブ」
- 外気の侵入を防ぎながら通り抜けは自由

高速シートシャッター「大間迅（ダイマジン）」
- 空調効果を保持し虫や塵などの侵入を防止

▶ 関連情報 P25-26

再生可能エネルギーの活用

太陽光発電システム
- 再生可能エネルギーの生産により脱炭素社会に貢献

資源の循環

木材・プラスチック再生複合材「テクモク」
エコウッド「エコMウッド」
- 100%リサイクル素材で循環型社会に貢献

▶ 関連情報 P33

自然との共生

BXカネシン　BX TOSHO
- 森林資源の有効活用を支える建築金物
- 木造建物の構造計算

地球温暖化を防止し
将来世代が快適に
暮らし続ける
地球環境の維持

BXグループの　快適環境ソリューション

防災事業

自然災害の影響を軽減し
いざという時に機能する建材の普及

守る

温暖化による悪影響に備える

インフラ整備
熱中症予防対策
BCP支援

▶ 関連情報 P33

簡易型止水シート「止めピタ」
- 軽量、コンパクトで持ち運べる大きさに収納可能
- 約5分で簡単に設置可能

浮力起伏式止水板「アクアフロート」
- 水の浮力で自動起立する浮力起伏式止水板
- 夜間や無人の施設でも安心

止水板付き重量シャッター「アクアボトム」
- 管理用の重量シャッターに0.5mまでの浸水に耐える止水機能を付加

高耐風圧仕様ウインドブロックシリーズオーバースライディングドア
- 大型台風による強風対策として負圧対策も備えた高強度仕様
- 大開口で耐風圧4000Paをクリア

▶ 関連情報 P33

BXテンパルオーニング
- エアコン・空調の節電になり高い省エネ効果
- 暑熱対策に有効な方法として期待

エネルギーの省力化・効率化

浸水から都市機能を守る

大型台風に備える

熱中症対策

大規模自然災害時に
人々の命と暮らしを守る
災害に強い街づくり

快適環境の実現

「限りある資源の再生」を推進し、 地球環境を守ります

木質感を追求した100%リサイクル建材で循環型社会の実現に貢献

規格外の木材・間伐材などの未利用木材や住宅解体時に出る木材と、容器包装リサイクル法により回収されたプラスチックなどを活用し生産される「エコMウッド」は、新規原料資源の消費がないため、不要なCO_2の発生を抑えることができます。
また、屋外でも永く使用できるため、炭素の固定化にも貢献しています。

ECOWOOD
Reproduction of limited resources

※「エコウッド」は社名、「エコMウッド」は商品名です

事業効果と環境認定

廃棄物の減量効果

エコMウッドの累計販売量（2003～2020年 42,700t）で算出

建築・建設廃材を原料とした場合
住宅4,744棟分の木材に相当

ペットボトルキャップを原料とした場合
キャップ89億個の有効利用に相当

CO_2減量効果

国産材を使用することで輸入木材に比べ輸送エネルギーを削減
ウッドマイルズのCO_2排出量 約83%削減

国産材（平均）	48 kg-CO_2/m³	約83%削減　エコMウッドはイペ等の輸入材の約1/6の排出量
外材（平均）	283kg-CO_2/m³	

出典：京都府地球温暖化防止活動推進センター

バージンプラスチックを使用する再生木と比較
ライフサイクル全体でのCO_2排出量 約41%削減

エコMウッド（R90）	2.48kg-CO_2/kg	約41%削減
バージンプラスチック使用再生木	4.21kg-CO_2/kg	

出典：渕上佑樹、神代圭輔、古田雄三/WPRCのLCCCO_2評価

環境認定

エコマーク認定
木材、プラスチックの再生材料を使用した100%リサイクル建材としてエコマーク認定を取得しています

間伐材マーク認定
森林を育てる間伐作業の際に出る「間伐材」を用いた製品であることを証明する「間伐材マーク」の使用認定を受けています

「燃やさない・埋めない・捨てない」 リサイクル

原料調達

社会課題

エコウッドが提案する地産地消

木材製品は、他の素材と比べて製造時の環境負荷が少なく、リサイクル性にも優れていますが、輸入材を多く使用すれば、輸送時の燃料消費において環境に負荷をかけてしまいます。
エコウッドでは、地域における木材利用のリサイクル循環を高め、ウッドマイルズ（輸入材による環境負荷）を改善する木材の「地産地消」を提案し、環境負荷の低減と地方創生の両立に挑戦しています。

国産木材

規格外の木材・間伐材

住宅解体時に出る木材

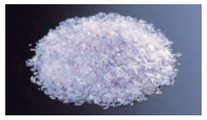
木質原料

焼却廃棄した場合 CO_2発生

廃プラスチック

容器包装リサイクル法により回収されたもの

一般家庭などから出るプラ容器


プラスチック加工工場から発生する端材

プラスチック原料

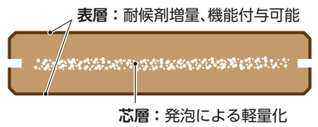
再資源化

CO_2固定

天然木の質感と風合いを再現

「エコMウッド」は未利用木材と廃プラスチックを微粉砕し、混練加熱成型で押し固め、最後に表面加工することで天然木の質感や風合いを表現しています。
さらにエコウッドオリジナル技術の二層発泡品は天然木に近い感覚で使用できる最先端の製品です。

二層発泡



使用

CO_2固定

耐久性に優れているだけでなくさまざまな機能を付与

プラスチックが木粉の空隙を埋め、表面を保護する構造になっているため、高耐候性を持つロングライフ製品です。
また、遮熱や帯電抑制機能を開発、全ての製品に抗菌機能を付与しています。

使用終了（解体）

焼却廃棄した場合 CO_2発生

回収・リサイクル（多回リサイクル）

CO_2固定

2020 北九州SDGs未来都市アワード ESD賞（企業部門）受賞

エコウッドは2020年度より企業理念とSDGsの実現に向けたEEG（エコウッド・エコロジカル・グローバルビジョン）の運用をスタート。その活動が評価され、「2020 北九州SDGs未来都市アワード」において、ESD賞（企業部門）を受賞しました。

平成29年度　資源循環技術・システム表彰「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞

本表彰は、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に寄与する高度な技術または先進的なシステムを有する優れた事業や取り組みを表彰し、循環ビジネスを振興することを目的としています。
エコウッドは、樹脂複合建材WPCの製造技術を元に、廃木材、廃プラスチックの活用を試み、屋外用木質建材「木材・プラスチック再生複合材（WPRC）」（商品名：エコMウッド）を製造する技術を確立、その貢献を評価していただきました。現在、この製造技術を応用し、地産地消の循環型まちづくりにも貢献しています。

VOICE

エコウッドは北九州エコタウンに循環型木質建材のメーカーとして創業しました。2000年に制定された循環型社会形成推進基本法を受け、3Rにビジネスチャンスを見出したのが当社の原点です。以来、「限りある資源の再生」をテーマに「環境・品質・技術」にこだわり、不均質な原料から均質で高品質な製品を生み出すものづくりで今日まで成長してきました。
当社の歴史を振り返りますと、創業10周年にこれまで蓄積してきた技術をカスタマイズした他社にはない「お客様オリジナル商品」で、再生木の新たな価値創造に取り組む「木心（きごころ）」コンセプトを掲げました。続く創業15周年時には、天然木と再生木の共存を図りながら地球環境保全に貢献する当社の取り組みが評価され、「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞しました。さらに創業20周年に向けて「エコウッド エコロジカル グローバルビジョン」を発表、企業理念とSDGsを実現する事業計画において重点課題を明確にし、それぞれの項目における具体的手段を設定しました。
今後もさらなる飛躍を期し、弛まぬ努力で持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

株式会社エコウッド　代表取締役社長　**石本 康治**

WEB 株式会社エコウッド　https://www.eco-wood.jp/